

アセンブリ教育実施要領



単一の専門職だけで医療を行うことは不可能です。複数の専門職が「連携する」必要があります。「患者の健康問題」に取りくむために、チームで協力して活動することができる医療人を育てましょう！

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

1. アセンブリ教育

アセンブリ教育は専門職連携教育である。その目的、卒業時の学修目標、概要等については、アセンブリ教育要綱（別紙）に記載されている。

2. 卒業要件

アセンブリ教育は建学の理念に基づき実施される特別教育活動で、単位数には含めないが、卒業に必要な教科であり、アセンブリ教育（アセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ）を修了していないと卒業できない。必要な修了時間は別途定める。但し、アセンブリⅣについては、トライアル中であり、一部の学生のみが参加する。

※医療科学部および保健衛生学部の一部の学科あるいは学年では、経過措置として単位認定の教科とする。また保健衛生学部の一部の学科ではカリキュラムの都合上、アセンブリⅢに参加できない学生が生じる。

3. 休講および補講

休講については、アセンブリ教育センターからの掲示で通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ担当副センター長の判断にて、掲示以外の方法で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

5. 概要

I) アセンブリⅠ

1年次に行うアセンブリ活動で、全学活動と班活動から成る活動である。

<アセンブリⅠ終了時の到達目標>

- ・他者を理解し、多様性を認め、尊重することができる。
- ・学校、学部、学科の垣根を越えて、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
- ・将来いろいろな医療職に就く学生と、多様な経験を有する教員が共通の目標に向かって、一緒に活動することができる。
- ・チームでの活動に主体的に参加できる。

<活動方法>

1) 活動内容

①全学活動

- ・アセンブリ講演会（医療と献体および特別講演。講演内容は変更される場合がある）
- ・講習会（救命救急講習、**コミュニケーション**講習、災害医療講習、搬送法）
- ・その他（**全体オリエンテーション**、アセンブリⅠ活動報告会1、2およびアセンブリⅡ活動報告会）

②班活動

- ・運動、文化、研究の三分野の班構成とし、実施活動班種目については年度始めにアセンブリ教育センターが指定する。登録できる班は別途定める。

2) 実施方法

①参加方法

- ・学生は、いずれかの班活動種目に参加しなければならない。
- ・学生は、年度始めの指定された日までに、アセンブリ教育センターに予備登録する。
- ・各班種目への所属は、原則として学生の予備登録によるが、その決定はアセンブリ教育センターで行う。
- ・所属した班は、原則としてその年度内は変更できない。

②班別担当教職員

- ・各班には班主任、班副主任を置き、アセンブリ教育センターが委嘱する。
- ・班別担当教職員は、用具施設の点検整備、不測時の処置などについて指導、指示を与える。班副主任は、班主任を補佐する。
- ・活動上、必要不可欠な場合に限り、指導者として専門的スキルと適切な人格を有する学外の人員を客員教員（アセンブリ・インストラクター）として採用することができる。採用人数に関しては、班の活動内容、実績などを精査し、アセンブリ教育センターが立案・推薦し、理事会で決定する。

③活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日4限（医学部においては5・6限）とするが、その他、集中講義形式を取り入れることも可である。

④活動施設

- ・活動施設は基本的に学内施設とするが、運動系諸班に関しては、活動成果を上げるため、必要に応じて学外施設の借用を認める。
- ・学外活動を行う場合は、アセンブリポータルサイトにある学外活動に係る資料を参考とし、所定の手続きを行うこと。

⑤活動物品

- ・活動に使用する物品については、アセンブリ教育センターで検討するが、原則として基本的施設設備を除いて個人負担とする。

⑥班活動成果の発表

- ・各班の創意を生かした方法により、学内等において発表する機会を設けることが望ましい。

<評価法>

評価は班活動（70%）と全学活動ならびにアセンブリ講演会や活動報告会（30%）を総合的に評価する。

うち、班活動は、参加度および活動内容についての達成度（70%）に加え、班ごとに定める「コミュニケーション能力・技術」（班紹介参照、30%）を合わせて評価する。全学活動（才

リエンテーション・アセンブリ講演会・講習会・活動報告会)については、参加度および達成度を総合的に評価する。

[注意事項]

- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・班ごとに実施される全学活動講習会(4回)と学年全体で行われるリエンテーション(初回)、アセンブリ講演会(2回)、アセンブリⅠおよびⅡの活動報告会は全て出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅱ) アセンブリⅡ

2年次に行うアセンブリ活動で、プロジェクト制により学生が自らの活動計画に基づいて主体的に行うチームとしての活動である。

<アセンブリⅡ終了時の到達目標>

- ・他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
- ・チームとして明確な目標を定め、チーム活動を円滑に行うことができる。
- ・目標に向かって一歩踏み出すことができる。
- ・課題の問題点を発見し、解決に向けて考え抜く力を発揮することができる。

<活動方法>

1) チーム

- ・5～10名の複数の学部・学科の学生が所属する混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、所属学生はリーダー、サブリーダー、会計、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は学生の主体性を尊重するが、アセンブリ教育センターが決定する。

2) 活動など

- ・活動時間はチームで主体的に決めることができる。(平日の授業後、土曜日・日曜日、夏休みなどを含む)
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、目標、スケジュールなど学生が主体性を持って決定する。
- ・活動目標として地域との連携、ボランティア、医療人としての基盤形成、リサーチマインドの涵養などを盛り込む。
- ・1年間の活動時間(リエンテーション、活動目標設定、計画書・予算書作成、プロジェクト活動、報告書作成、活動報告会など)は30時間以上とする。
- ・活動費用は、予算申請書を提出後、アセンブリ教育センターの承認を得て配布する。
- ・活動費を使用した場合は、指定のルールに添った会計報告を行う。
- ・プロジェクト計画書、予算申請書、現金出納帳、領収書(出金伝票)貼付用紙、結果報告書、学外活動届、事由書、活動記録簿、評価票などはフォーマットを定める。
- ・活動終了後は、必要に応じて活動報告会を行う。

<評価法>

評価は、プロジェクト活動(70%)と全体活動(30%)を総合的に評価する。

プロジェクト活動の評価のうち、「他者とのコミュニケーション」と「主体性」について重点的に評価し、活動計画、予算計画、会計報告、活動状況、活動報告書なども含めて総合的に評価する。

全体活動の評価は、オリエンテーション、講演会、報告会の出席状況などについて評価する。

[注意事項]

- ・アセンブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅲ) アセンブリⅢ

3年次（一部の学科は4年次）に行うアセンブリ活動で、チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採り入れたチームとしての活動である。

<アセンブリⅢ終了時の到達目標>

- ・他者と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・チームでの活動に自らの役割を認識し、意見を述べることができる。
- ・患者*の健康問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる。
- ・保健医療福祉における専門職を意識し、チームの一員として協働することができる。

*地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。

<活動方法>

- ・活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- ・授業形態としては、チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- ・5～6名の学部・学科の異なる学生で混成チームを作る。
- ・各自の学部・学科で学んだ専門性を生かし、学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者の健康問題」の解決にむけて取り組み、具体的なプランを提案する。
- ・事前説明会でアセンブリⅢの目的・目標を理解し、配布した資料を十分に予習して、授業に臨むこと。
- ・1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストである i R A T（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合って解答する t R A T（チームとしての準備確認テスト）を行う。t R A Tにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- ・2日目の授業は引き続き応用課題を行なった後、まとめを行い、授業の最後では同僚学生による評価(ピア評価)、振り返りを行う。

<評価法>

事前説明会で配布された予習資料の内容を充分理解しているか否かを確認する個人テスト（i R A T）、チームテスト（t R A T）、応用課題の成果物、ピア評価、そして学修に取り組む姿勢により、総合的に評価する。ピア評価を行う際、「他者とのコミュニケーション」、「主体性」、「患者中心性」といった専門職連携を行う上で必要となる能力についても考慮する。

[注意事項]

- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅳ) アセンブリⅣ

原則として、アセンブリⅠ・Ⅱ・Ⅲ終了後に行うアセンブリ活動である。

現在、トライアルの準備を進めている。後日、詳細について掲示する。

＜アセンブリⅣ終了時の到達目標＞

- 医療の流れを患者*中心に理解し、説明することができる。
 - 患者*と良好な人間関係を築くことができる。
 - 他職種役割を理解し、尊重して行動することができる。
 - 患者*の健康問題を解決するために、他職種（多職種）と協力することが出来る。
- *地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。